


[<トップページへ](#)
[トップページ ニュース一覧](#)
[Z](#)

体の不自由な人を支援 「自助具」PR 秋田のNPO

=東北=

宮城	青森
岩手	秋田
山形	福島
広域	分野別

=内外=

一覧	政治・行政
経済	株・為替
国際	社会
スポーツ	文化・芸能
科学・環境	IT
暮らし・話題	社説
新商品	予定
詳細	



「まち工房なんも」で行われている自助具の製作と技術研修

高齢者や体の不自由な人向けの「自助具」を製作している秋田市内のボランティア団体が、本格的な普及活動に乗り出す。一般には知名度が低い自助具をPRするとともに、製品開発と需要の掘り起こしを図り、作り手のネットワークも広げようと意気込む。

ボランティア団体はNPO法人「秋田バリアフリーネットワーク」(佐々木孝理事長)。一昨年、県の委託事業として秋田市内に「まち工房なんも」を

開設し、自助具の製作を始めた。

東北、北海道では唯一の製作グループという。この2年間、メンバーは先進地の技術者から作り方を学ぶとともに、関心のある市民を対象に技術研修を重ねてきた。

自助具は体が不自由な人が日常生活をよりスムーズに送れるよう工夫した道具。工房ではプラスチック製のストローホルダーや片手用シャンプー容器とそれを支えるスタンド、スプーンホルダーなど約100点の試作品を作った。

三陸河北新報社

News Access

ランキングをリアルタイムで表示中

JWN

ブロック紙など8社の共通WEB

今日のニッポン

地方紙39社の共通WEB

AREA21

河北、日経など15紙の共同サイト

いずれも脳性まひや脳血管障害などで手が震えたり握力が極端に弱い人たちが使うことを前提とした道具だが、佐々木理事長は「体の自由が利かない高齢者にとっても使い勝手がいい」と話し、高齢化率が高い秋田県内での需要を見込む。

自助具は使い手が限られていたり、使い手に合わせた調整などが必要だったりするため、通常の流通ルートには乗りにくい。製作に携わるのはほとんどが知名度の高くないボランティア団体だという。

「まち工房なんも」もPR活動はこれから。メンバーが福祉施設などを訪れて無料で製品を提供すると同時に、どんな自助具が必要とされているのかを探り、新たな製品開発に挑む計画だ。

佐々木理事長は「ボランティア団体らしい、きめ細かな対応をしたい」と語る。

秋田県が養成し、現在約200人が登録しているバリアフリーコーディネーターとの連携も模索。製品開発のノウハウを県内全域に広めながら作り手を増やし、製品の普及を図る考えだ。連絡先は018(836)0063。

2006年05月22日月曜日